

都トモニ群集ト云程ノコトハ無之、大坂ニテハ正月ノ餅ニテ製シタル霰ニ、白豆青ヲ交ヘ煎テ、供之家モアリ、俗ノ言ニ、是ヲ御釋迦サマノ鼻糞ト云也、江戸ハ今日イタバキト名付テ、新粉製ニ赤小豆餡ヲツケテ供物トス、大坂上巳ノ物ト同製ニテ小形也、

## 彼岸

彼岸ハ、毎年二月八月ノ二季、晝夜平分ノ時ヲ以テ、法會ヲ營ム例ニシテ、其縁由ハ詳ナラザレドモ、或ハ延暦二十五年三月十七日ノ官符ヲ以テ、崇道天皇ノ爲メ、國分寺ノ僧ヲシテ、春秋二仲ノ月七日間、金剛般若波羅蜜多經ヲ續マシメシニ、濫觴ストモ云ヘリ、此說或ハ然ラン、波羅蜜多ハ到彼岸ノ義ニシテ、即チ轉迷開悟ヲ謂フ、此時啻ニ諸寺院ニテ、法會ヲ修スルノミナラズ、民家ニ在リテモ、或ハ佛事ヲ營ミ、祖先ノ冥福ヲ祈ル等ノ事アリ、

〔拾芥抄九下本〕八月彼岸、欲到諸佛淨土者、二八月、八王堯會時、修到彼岸齋會法、是云吉祥之時、又云淨滿也、此時修功德者所願成就、凡萬事相叶不滅失云々、

〔河海抄乙通文〕ひがんの比をひわたり給、彼岸齋法成道云、一切衆生、依持二八月齋、十方世界、一切衆生離苦得樂靈瑞而已、乃至彼岸二八月幸會時、修到彼岸齋會云々、

〔壇囊抄十〕以二季彼岸、作善根時節トスルハ何ゾ、夫一年ヲ四季ニ分ツト云ヘ共、誠ハ春秋ノ二季也、夏ハ春ノ餘リ、冬ハ秋ノ餘也、サレバ晝夜ノ長短ヲ云モ、極長ハ夏ニアレ共、春ノ日長シト云、極長ハ冬ニアレ共、秋夜長シト云也、左傳ニキ、二季ニ分ガ故ニ、春秋ノ名アリト云々、此春秋二季ノ間ニ、彼岸ハ是正時也、經云、晝夜齋等ニシテ、如比兩岸左右均等ト云々、仍テ名比岸、又日出日沒ノ兩岸、彼ノ岸ト々々ト齊ガ故ニ、彼岸共書ク、時分相應故ニ、所作成就スト云々、